

★学校教育目標			○たくましい子	○たすけあう子	◎かんがえる子	★重点計画の概要		
★目指す学校像（ビジョン）						★重点計画の概要		
【めざす児童・生徒像】						○望ましい人間関係の形成を図り、話し合いを通して考えを深めることができる児童の育成に努める。		
① 心身共に強く健康な児童						○地域密着型の学習活動を実施して、思考力・判断力を育てるとともに地域に対して愛着をもたせる。		
② 温かな心をもち、力を合せて活動する児童						○児童が「わかる」「できる」といえる授業をめざしてユニバーサルデザイン化を進め、家庭学習と運動して基礎的・基本的な学力の定着を図る。		
③ 郷土を愛し、自ら考え表現する児童						○いじめの発生を防止する。		
【めざす学校像】						○食への関心を高めるとともに、自ら運動する習慣を身に付けさせることにより、健康で体力を高める児童の育成に努める。		
① 学び活動する楽しさがある学校								
② 安全・安心で、豊かな情操を育む学校								
③ 保護者・地域と共に歩む学校								
【めざす教師像】								
① 全ての児童に学ぶ喜びを味わわせる教師								
② 児童相互の友情や信頼を築く教師								
③ 学校組織を活性化させる教師								

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
子供	小中9年間の学びの連続性の中で、学区（豊田、川辺堀之内、南平）や日野市に愛着をもち、考える児童を育成する	・目標とする児童・生徒像「問題を発見し追究する力」「人とかかわる力」「自己の役割を果たす力」を実現するための指導を開発する	・生活科や総合的な学習の時間で、共に学び合い、課題を解決する授業を展開する ・地域とかかわりのある学習計画を系統的に組み立て、日野市や豊田のよさを感じることができる授業を展開する。	4	地域とかかわりのある単元を計画し、課題を追究する授業を展開した教員が90%以上	4	日野市や豊田のよさを表現することができた児童が全体の90%以上	郷土愛を深めるための地域学習は概ね良い。子供たちが自ら考え、地域とのかかわりを大切にしながら学習を展開し、達成感を味わうとともに成果が出ている。今後も、地域の教育力や教育資源を大いに活用してほしい。	各教科、道徳及び総合的な学習の時間等での地域のよさについて考え、地域から学ぶという実践を積極的に行うなかで、日野市や豊田のよさを実感することができた。今後も、地域のたくさんの方々とかわり、我が町豊田のよさを知るなかで、地域に貢献することができる子供たちの育成を目指す。
				3	地域とかかわりのある単元を計画し、課題を追究する授業を展開した教員が80%以上	3	日野市や豊田のよさを表現することができた児童が全体の80%以上		
				2	地域とかかわりのある単元を計画し、課題を追究する授業を展開した教員が70%以上	2	日野市や豊田のよさを表現することができた児童が全体の70%以上		
				1	地域とかかわりのある単元を計画し、課題を追究する授業を展開した教員が70%未満	1	日野市や豊田のよさを表現することができた児童が全体の70%未満		
教職員・学校	全ての児童に思考力・判断力・表現力を育成する	・問題解決的な学習を取り入れた、教科ごとの単元ごとの授業スタイルを構築する ・授業のUD化を図る	・様々な教科で積極的にアクティブラーニングを取り入れた問題解決学習を展開する ・どの児童にも分かりやすく、学習課題を明確に持って取り組めるUD化した授業を展開する	4	どの児童にも分かりやすいUD化した授業を積極的にとおこなった教員が90%以上	4	授業内容を理解できている児童が、90%以上	子供たちが自分の考えを伝えることができるような授業形態及び学習指導の工夫をしてもらいたい。授業のUD化は、よい授業を目指した授業改善として捉え、引き続き、児童の学び力の向上に取り組みしてもらいたい。	授業のUD化を促進するためにICT機器を活用するなど、すべての児童にとって「分かる」「楽しい」授業を目指した。児童からは「授業は分かりやすい」との反応が9割を越え、着実に成果が上がった。今後も児童が自ら考えをもち、友達とその考えを協働しながら解決していく双方向型の授業スタイルへの実践を積み重ねていく。
				3	どの児童にも分かりやすいUD化した授業を積極的にとおこなった教員が80%以上	3	授業内容を理解できている児童が、85%以上90%未満		
				2	どの児童にも分かりやすいUD化した授業を積極的にとおこなった教員が70%以上	2	授業内容を理解できている児童が、80%以上85%未満		
				1	どの児童にも分かりやすいUD化した授業を積極的にとおこなった教員が70%未満	1	授業内容を理解できている児童が、80%未満		
学校、家庭、地域・社会	家庭での学習習慣を定着させる	・自主的に家庭学習に取り組む態度を身に付けさせるために、家庭との連携を強化する	・家庭学習の基本的な考え方や進め方について、「家庭学習の虎の巻」を作成し、保護者に配布して家庭との連携をして家庭学習の習慣化を図る ・学年主任を中心として各担任間で、1年生から6年生まで発達段階を考慮した系統性についての共通理解をし、家庭学習の推進をする	4	家庭との連携を図り、家庭学習を積極的に推進する教員が90%以上	4	学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が90%以上	家庭学習や宿題について1年生から6年生までの系統性を考慮するなどして具体的な方策で継続的に取り組んでいく必要がある。保護者向けに家庭学習の必要性や進め方を伝えるなど具体的な働きかけを工夫し、家庭と連携して継続的に進めていく必要がある。	家庭での理解がさらに深まり、家庭学習の定着につながるよう、平成29年4月には、全家庭に「豊田小学校家庭学習 虎の巻」を配布して協力を促していく。また、児童に対して、家庭学習の重要性を繰り返し丁寧に指導し、年間を通じて継続的に実施できるよう指導する。
				3	家庭との連携を図り、家庭学習を積極的に推進する教員が80%以上	3	学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が80%以上		
				2	家庭との連携を図り、家庭学習を積極的に推進する教員が70%以上	2	学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が70%以上		
				1	家庭との連携を図り、家庭学習を積極的に推進する教員が70%未満	1	学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が70%未満		
生活指導	いじめをゼロにする	・スクールカウンセラーと連携しながら、いじめの早期発見、早期対応をする ・児童全員の居場所があり、教師と児童、児童同士が信頼できる学校を実現する	・いじめアンケートを2か月に1回実施し、児童の実態を把握することで児童理解に努める ・担任や児童同士で協力したり認めたりする機会を意図的、計画的に設ける ・「親切・おもいやり」「いじめ」に関する授業を各担任が学期に1度おこなう	4	毎日、「親切、思いやり」「いじめ」にかかわる指導をおこなう	4	学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で0件	いじめの起きにくい学級の実現に対する教員の努力が認められる。また、いじめの早期発見、早期対応、組織的な対応に関して努力が認められる。今後も生命尊重、思いやりの気持ちを育てるような指導を継続的に進めてもらいたい。	「生命尊重」「おもいやり」に関する指導に重点を置いたことで、成果を上げることができた。今後は、学級への所属感や自己肯定感、自己有用感を高めていく指導を工夫し、「いじめ」の起きにくい学級づくりを進める。また、いじめに関するアンケートや調査を継続し、早期発見と組織的な対応で早期解決ができるようにする。
				3	2日に1回、「親切、思いやり」「いじめ」にかかわる指導をおこなう	3	学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で1件		
				2	3日に1回、「親切、思いやり」「いじめ」にかかわる指導をおこなう	2	学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で2件		
				1	1週間に1回、「親切、思いやり」「いじめ」にかかわる指導をおこなう	1	学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で3件以上		
特別活動	児童に主体的に学校生活上の課題を解決させることを通じて、人と共に考える力を身に付けさせる	・児童会、委員会、クラブ、学級会等における会議の進め方のスタンダードを作成する ・なかよし班活動を充実させる	・学級会の進め方のスタンダードを教員間で共通理解し、子供まつりや運動会等の行事に向けての話し合い活動で活用する ・なかよし班活動の目的を意識した活動を行わせるため、班長への事前指導を徹底する ・異学年の交流を深めるために、なかよし班会議やなかよし班給食を実施する	4	話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が90%以上	4	話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が80%以上	話し合い活動は、自分の考えを伝え合う大切な取り組みである。したがって、一方的に目標を与えるのではなく、子供の願いや思いにそった目標をもたせていくことが大切であり、引き続き取り組みさらに充実させてほしい。	自分の考えを自信をもって伝えることができる児童が十分に育っていない現状がある。学級活動にとどまらず、各教科や道徳及び総合的な学習の時間で話し合い活動を取り入れた授業を行っていく。また、話し合い活動に有効な手立てを教員間で共有し、児童が自信をもって自分の考えを伝えることができるようにする。
				3	話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が80%以上	3	話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が70%以上		
				2	話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が70%以上	2	話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が60%以上		
				1	話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が70%未満	1	話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が60%未満		
体育	運動を好み、進んで運動する児童を育成する	・児童が体を動かす楽しさを味わったり、運動に夢中になったりする体育の授業を実現する ・体育的行事を通じて運動の良さや成就感を味わわせる ・休み時間には校庭で元気に遊ばせる	・「ゲーム」及び「ボール運動」領域の1単位時間の指導計画をモデル化し、見直しをもって活動に取り組ませる ・各学年の実態に応じた体育用具を充実させ、活用することで運動に親しませる ・外部講師を招き、専門的な指導を受けさせ、運動への意欲を高める	4	休み時間、校庭に出て元気に遊ぶ指導をした教員が90%以上	4	「体を動かすことが好き」と答える児童がクラスの90%以上	体力向上への取り組みがよい。ランニングタイムや持久走記録会の取り組みが成果につながっている。今後も、体を動かすことの気持ちよさを感じ取れるような取り組みをさらに工夫してほしい。	ランニングタイムや持久走記録会、さらになわとび週間を設定し、年間をとおして運動する機会を設けることで体力の向上につながった。今後は、体を動かす、運動することの自体の楽しさや心地よさを実感できるように、体育授業の改善を行うとともに、休み時間の外びなどの運動の日常化を目指した具体的な取り組みを行う。
				3	休み時間、校庭に出て元気に遊ぶ指導をした教員が80%以上	3	「体を動かすことが好き」と答える児童がクラスの80%以上		
				2	休み時間、校庭に出て元気に遊ぶ指導をした教員が70%以上	2	「体を動かすことが好き」と答える児童がクラスの70%以上		
				1	休み時間、校庭に出て元気に遊ぶ指導をした教員が70%未満	1	「体を動かすことが好き」と答える児童がクラスの70%未満		
食育	食への感謝の心をもち、食に関する知識及び判断力と望ましい食習慣を身に付けた児童を育成する	・食のありがたさ、大切さを理解させる ・望ましい食事マナーを身に付けさせる ・給食を残さずいただくようにする	・ふれあいフライデー（栄養士、調理員、地域の方との交流会食会）を全校級で実施し、食への感謝の意識を高めるようにする ・給食時間の流れ（準備や片付け及び食事の時のマナーなど）について、全教員共通理解して取り組み、食事をする時間を確実に確保し、各学級の残菜を減らす	4	食への感謝の意識を高める指導を毎日行う教員が90%以上	4	常時完食する児童がクラスで90%以上	給食の残菜量は、昨年度と比べて劇的に改善されている。食育の指導を今後も充実していくとよい。今年度は、調理員さんや地元食材提供者との会食を実施した取り組みがよい。今後も生きる力の源となる食への関心を深めてほしい。	今年度は、食材の生産者や調理員、校長との触れ合い給食会を、全校級で実施することができ、食への関心や感謝の気持ちを高めることができた。来年度も引き続き、触れ合い給食を継続することで、感謝の気持ちをもたせ、残菜も確実に減らしていきたい。
				3	食への感謝の意識を高める指導を毎日行う教員が80%以上	3	常時完食する児童がクラスで80%以上		
				2	食への感謝の意識を高める指導を毎日行う教員が70%以上	2	常時完食する児童がクラスで70%以上		
				1	食への感謝の意識を高める指導を毎日行う教員が70%未満	1	常時完食する児童がクラスで70%未満		
幼保中との連携	学びの連続性の中で、希望をもって学校生活を送る児童を育成する	・スタートカリキュラムを整備し、小学校生活への円滑な適応を図る ・幼保と定期的に交流させ、親近感や思いやりの心をもたせる ・6年生に中学校生活に対する見直しや希望をもたせる	・特別支援教育の視点にたったスタートカリキュラムを活用し、小学校生活に適応できるよう、見直しをもたせる ・1年生の生活科や3・4・5年生の総合的な学習の時間において、幼保小の交流を活発にする単元計画を整備する ・部活体験や出前授業など中学校生活を体験させる機会をもつ	4	年間4回、幼保中との交流活動を行う	4	80%以上の1年生の児童が「学校は楽しい」と答え、6年生児童が中学校生活に期待していることがあると答える	年長児にとって、小学校生活を身近に感じる活動であり、小学校へのスムーズなつながりになっている。子供たちが自ら考え、行動し、達成感を味わっていることが伝わってくる。今後も、定期的に交流する機会を確保するために、綿密な日程調整を行ってほしい。	園児と触れ合う交流会を年間をとおして実施することができた。園児にとっては、活動をとって小学校に対する不安感を払しょくすることができ、スムーズなつながりとなっている。今後も、幼保中との連絡・調整を密に行い、子供たちが交流をとおして、自らの成長に気づき、自己肯定感がより一層高まるよう実践していきたい。
				3	年間3回、幼保中との交流活動を行う	3	70%以上の1年生の児童が「学校は楽しい」と答え、6年生児童が中学校生活に期待していることがあると答える		
				2	年間2回、幼保中との交流活動を行う	2	60%以上の1年生の児童が「学校は楽しい」と答え、6年生児童が中学校生活に期待していることがあると答える		
				1	年間1回、幼保中との交流活動を行う	1	「学校は楽しい」と答える1年生児童及び、中学校生活に期待していることがあると答える6年生児童が60%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。